

# 短期認定留学 体験談

商学部商学科 田口 乃秋

## 1. 短期認定留学を申し込んだ動機について

元々、大学在学中に留学してみたいという気持ちがあった。そんなことを思いながら、なかなか踏み出せず、2年生の秋学期に入り大学2年間で振り返った時、大学生活で、まだ何も成し遂げていないことに気づき、焦りを感じた。このまま4年間過ごしていいのかと自問自答している時、この短期認定留学の募集があった。海外留学に興味があったので、せっかくのチャンスを無駄にはいけないと思い、留学を決意した。



## 2. 留学前の準備について

7週間留学するにあたり、ニュージーランドとはどのような国なのかを調べた。初めての留学で、当然留学の知識もなく、右も左も分からない状態だったため、インターネットで調べたり、留学経験がある知人に分からないことは聞いたりした。また、昨年このプログラムで留学した方の体験談を読み、情報収集をした。私が留学した期間は、ニュージーランドの夏終わりから秋初めの時期でサマータイム導入中で、日本との時差は4時間であった。

短期認定留学は、基本的には自分で全て行うプログラムなので、航空券も自分で取ったが、途中で1週間留学期間を延ばすことになり、航空券を予約するのが出遅れてしまい金額が高くなってしまった。

日本から持って行った物としては、4~5日分の洋服、シャンプーや石鹸などの衛生用品、変換プラグ、ホームステイ先へのお土産、そして日本食が恋しくなると思い、インスタント食品を少しだけ持って行った。

通信手段として、私はポケットWi-Fiを借りたが、場合によっては現地のSIMカードを借りたり、買った方が安い場合もあるので、よく調べておいた方がいい。

## 3. 現地での語学コースについて

### ○コースの内容(授業内容、良かった点、悪かった点、感想など)

留学中は、「クライストチャーチ工科大学」という現地の学校に通った。そこでは、留学生が英語を学ぶためのコースがあり、入学当日に英語のテストを行い、その結果によってクラスが振り分けられた。月曜日から木曜日は9時~15時、金曜日は9時~11時の授業時間で、午前は主に文法やリーディング、ライティング、午後は主にスピーキングとリスニングが中心だった。

午前の授業では、教科書を使いながら、関係代名詞や接続詞などの文法を学んだ。日本で習った意味や使い方のニュアンスが違うときがあったので、新たに学ぶことが多かった。ピンクカードと

いて、授業中に英語以外の言語で話したら、ペナルティが課せられるというものもあり、楽しく英語を学べた。午後の授業では、毎週先生から出されるテーマについてのプレゼンがあり、ペアやグループの人は違う国の人なので、英語という共通のコミュニケーションツールで、プレゼンの内容を考えたり、パワーポイントのスライドを作ったりした。最初は、全く意思疎通できなかったことも、回数を重ねるごとにコミュニケーションが取れて、プレゼンの苦手意識が薄れていった。前に出て発表することにも慣れて、楽しいと思えるようになった。

#### 4. 滞在先について(良かった点、悪かった点、感想など)

私が滞在したホームステイは、中心市街地のバスターミナルからバスでおよそ 50 分のところに位置し、海沿いの家だった。ホームステイ先には、ホストファザー、ホストマザー、犬が 2 匹と猫が 1 匹いる家庭だった。最初の 2 週間は韓国の留学生も一緒に住んでおり、4 週目からはホストファミリーの娘と、娘の彼氏と一緒に住んだ。温かく明るい家庭で、初めて来た時も優しく出迎えてくれて、会話をしている私に聞き取れなかった時はゆっくり話してくれた。

夕飯は、焼いたお肉と付け合わせとの組み合わせが多く、基本的にコンロはあまり使わず簡単に作れるようなメニューで、食を大事にする日本との文化の違いを知ることができた。金曜日、土曜日は毎週ラグビーの試合が行われていて中継もあったので、週末はテレビの前で一緒にラグビー観戦をした。お酒が好きなホストファザーだったので、週末にはオリジナルのお酒をつくって私に振る舞ってくれたりした。平日の昼食は自分で作らなければならなかったもので、サンドウィッチやフルーツを切って学校に持って行った。

#### 5. 現地での生活全般について

大学では毎日、昼休みや放課後に、様々なアクティビティが行われている。例えば、バドミントンやバスケットボールなどといったスポーツから、ヨガやズンバダンス、ボクシングまでたくさんの種類があり、参加は自由で無料なので、自分の好きなスポーツができる。不定期にだが、フリーモーニングや、フリーBBQ、スチューデントフェスティバルなど、あらゆるイベントが開催されている。

毎週金曜日の午後からは、スクールアクティビティというプログラムがある。サーフィンやマオリ文化体験、ロッククライミングなど日頃体験できないようなニュージーランドならではの体験ができる。このように頻繁にアクティビティが開催されているので、世界中の人と友達になれ、繋がることのできる。



放課後はアクティビティに参加したり、友人と買い物をしたりした。大学がバスターミナルから近く、バスターミナル付近には、お洒落なカフェや洋服屋があったので、街周辺やショッピングモールに行った。クライストチャーチは街全体がアートの街で、あらゆる壁に絵が描かれており、街を散策すればするほど面白いものがたくさんあって、見ていて飽きない場所であった。

休日は、季節が夏ということもあり、毎週どこかでお祭りが催されていた。下の写真は、ナイトヌードルマーケットというお祭りで、何千人、何万人規模の大きいお祭りだった。ステージではオーケストラが演奏していて、屋台では中華料理をはじめ、タイ料理、日本料理もあった。サマータイム中でいつもより1時間遅いため、日が落ちるのが20時半と遅く、日本との違いを感じた。



#### 6. 短期認定留学をして、学んだこと、自分が得たもの、参加前の自分とどう変わったか等

7週間の留学で、英語だけでなく多くのことを学び、知り、経験することができた。勉強面では、相手に上手く気持ちを伝えられないことのもどかしさや悔しさを、日本にいる時以上に痛感し、逆に上手く相手に伝えられた時の嬉しさや、勉強の成果も実感し自信もついた。

留学前の全く話せない状態から、簡単な会話は出来るようになり、相手の言っていることが聞き取れるようになったことは、私のなかでは大きな成果だといえる。また、何事も一生懸命に取り組む姿勢が大事だと改めて感じた。たとえ伝わらないことがあっても、伝えようとする姿勢を見せれば、

誰もが理解しようと聞いてくれる。そういう場面をたくさん見てきて、これは世界共通であり、これからの就職や人生のなかで、大事にしなければならないと思った。

ニュージーランドの文化を知り、日本の良いところや悪いところを再発見できた。自分の考えがいかに狭く、固かったかが分かり、自分のなかでの普通や当たり前だと思っていたことが、普通でなく当たり前でなかったかが、他国の人と関わってみて知り、自分の視野を更に広げることが出来た。これは、今回の留学での最大の成果であり、留学してよかったと思えた一つである。

#### 7. 短期認定留学プログラム全体に対する感想、反省

このプログラムは、自分で留学期間(春期休業期間中の4週間以上)を選ぶことができる。私は、留学するならば出来る限り長い期間行きたいと思っていたので、春休み期間の7週間を使い留学した。現地の学校では、日本から留学にしている学生もおり、授業などで互いに助け合いながら学べたので心強かった。しかし、日本人が多い時には日本語を話してしまうことがあったので、自分から英語を話す機会をつくらなければ留学の意味がないと反省した。

#### 8. 休暇のプランの立て方や行った場所など詳しく教えてください。

休暇のプランは、「今週はここに行こう!」と友人と約束をして、前述した通り、お祭りに行ったり有名な観光地に行ったりした。路線バスの範囲内で行ける場所が多かったので、移動しやすかった。ショッピングモールやクッキー屋、アカロアや現地の温泉にも行った。

#### 9. ニュージーランドに持参した現金とカードで使用した金額はどれくらい?

7万円を換金し持参した。基本的にクレジットカードで支払うようにしたが、現金払いのみの店もあるので、多めに換金して正解だと思った。使用した金額は、現金6万5千円、カード8万円ほどだった。

#### 10. 今後派遣される学生へのアドバイス

クライストチャーチは、外国の中では治安も良く、人も温かい国である。一日に四季があると言われるように、日中の気温は高いときは高いが、朝晩は冷え込むので、パーカーや長袖を持って行った方が良い。また、留学は自分の気持ち次第で変わるので、ニュージーランドに行って何を学びたいかを明確にしておく、より良い日々が送れると思う。現地の人だけではなく、他国の人との交流も多いので、その国ならではの文化や言葉、考え方を知ることができるのも、留学ならではの経験ではないか。

留学中に、「モスク襲撃事件」という世界のニュースになるような、悪質で、残酷な事件が起きた。治安が良いと言われているところでも、いつ、何が起こるか分からないと実感し、自分が外国人となった時に狙われてもおかしくないような状況に恐怖とともに、楽しいだけが留学ではないと身をもって経験した。この事件は忘れてはいけないう、多様性は美しいこと、宗教とは何なのだろうと色々考えるきっかけになった。最後に、この事件で犠牲となった方々に哀悼の意を捧げ、留学報告は終わりとす。